西新井納税貯蓄組合連合会　会長賞

「支え合う社会をつくる税」

足立区立　西新井中学校

三年　遠藤　未悠

私は以前まで税金について深く考えたことがありませんでした。買い物をした時に消費税を払うことは知っていても、それがどこでどう使われるのか考えたことがありませんでした。そんな私が税について考えるきっかけになったのは介護保険について調べたことです。

私の祖父母は、二人とも今は元気に暮らしています。まだ介護サービスを利用したこともありません。そのため私は介護はまだ遠い話だと思っていました。しかし、私の母は介護の仕事をしています。母が高齢者の方の生活を支える仕事をしている姿を見ていると、決して遠い世界の話ではないのだと少しずつ感じるようになりました。そこで私は「もし介護保険料を払わなかったらどうなるのだろう」と疑問に思い、調べてみました。

介護保険は介護が必要になった人を社会生活で支える為の制度です。四〇歳以上の人が介護保険料を負担し、それに加えて税金なども使われています。集められたお金によって介護が必要になった人が訪問介護やデイサービスなどのサービスを受けられるようになっています。

調べてみて私は、一つのことに気づきました。それは、介護保険も税金も「今、自分が使っているかどうか」だけではないという事です。今は元気な祖父母も、ゆくゆくは介護が必要になるか

もしれません。その時、介護を受ける人だけでなく、その家族も支えられる仕組みを支えているのが税金や社会保険料を負担している、多くの人達です。私は今まで税金を「払わなければいけないお金」だと思っていましたが、今回の事がきっかけで税金は私達の生活を支える為に使われている大切なお金だと分かりました。学校や道路、ごみの収集、消防や救急など私達が当たり前だと思っている生活の中にも税金が使われています。

母が介護の仕事をしている事や、祖父母が元気に暮らしている事をきっかけに介護保険についても調べた事で私は「支える」ということについても考えるようになりました。

今の私はまだ税金を納める立場ではありませんが、将来働くようになれば私も税金や社会保険料を負担することになります。その時には「ただ取られるお金」と考えるのではなく、自分だけでなく、誰かの生活を支える為のお金でもある事を思い出したいです。

祖父母がこれからも元気でいることを願っています。そして将来、誰かが介護を必要とする事になったとしても安心して暮らせる社会であってほしいと思います。

今回の作文を通して私は税金を「社会の中で支え合うためのお金」と考えるようになりました。今はまだ支えてもらう側の私ですがいつか自分も社会を支える側になれるように頑張ります。